

侵入警戒調査で発見されるミバ工類(I)

わが国ではチチュウカイミバ工、ミカンコミバ工などの重要ミバ工類に対して、従来、全国にトラップを設置して侵入警戒調査を実施している(本誌6号参照)。

この調査では対象としていないミバ工が誘殺される場合が多く、対象ミバ工との確実な識別が重要である。

トラップで発見されるミバ工についてはこれまでも解説されているが、ミバ工類に対するもうひとつの重要な調査方法である果実調査で発見される本邦産ミバ工も含めた識別について、4回に分けて解説する。

発見されたミバ工の識別を行う手順としては、まず、そのハ工がミバ工科に属するものであるかどうかを確認し、次に、形態上の特徴を検索しながら種の同定を行うのが通常である。

識別に当たっては、各部名称及び外部形態を知

っておく必要がある。第1～3図に体の主要な部分とその名称又は記号を示したので、以下の検索表や解説を読むに当たって参照していただきたい。

まず、発見されたハ工がミバ工科のハ工であるかどうかは次の特徴を確認して、識別する。

1)後頭頂刺毛は平行又は離反する(第1図)。

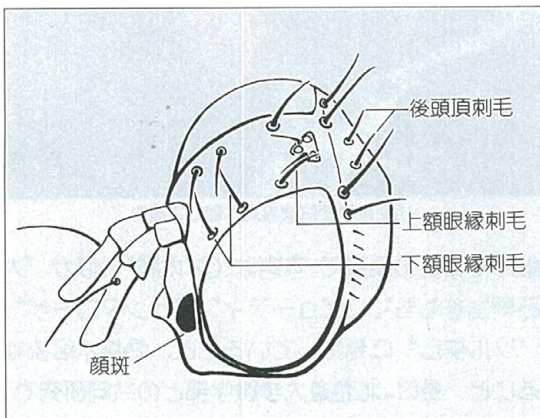
この刺毛はウリミバ工などが属するミバ工亜科で発達が悪く、あってもごく微細な刺毛であるので、注意を要する。

2)上額、下額眼縁刺毛をともに持つ(第1図)。

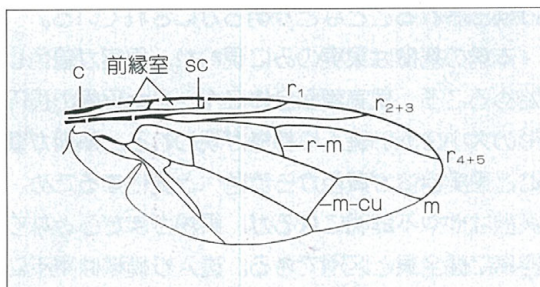
3)翅の前縁脈は肩横脈の前後と亜前縁脈の終点との3か所に切れ目がある。これらの切れ目はいずれも微細であるため、実体顕微鏡下での慎重な観察を要する。また、亜前縁脈の切れ目に向かう部分は *Dacus* 属(例:ウリミバ工、ミカンコミバ工)のミバ工では不明瞭で弱いしわ状である(第2図)。

次回にはミバ工各種への検索表の解説を行う。

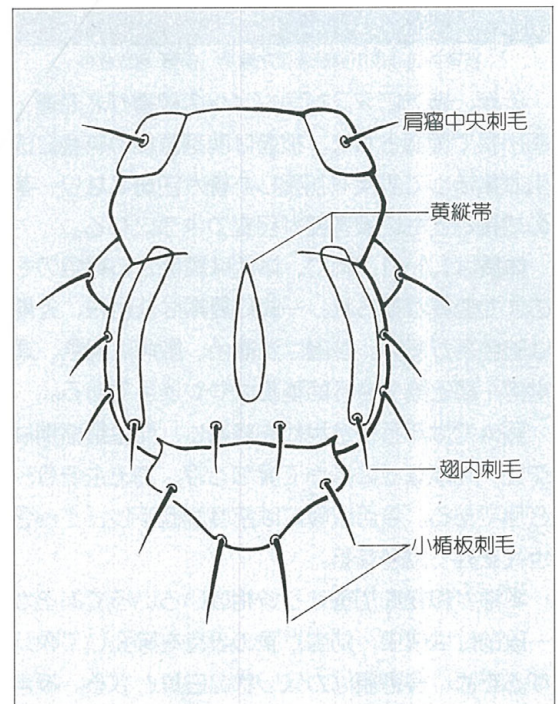
(以下次号に続く)。



第1図 ミバ工の頭部



第2図 ミバ工の翅



第3図 ミバ工の胸部